

光をつなぐ! ~セカンドシーズン~

明日から使える! 網膜治療“この一手”

日時 2013年11月1日(金) 11:40~12:40

会場 第8会場 (パシフィコ横浜 313+314)



座長

竹内 忍 先生

竹内眼科クリニック

網膜疾患に対する治療は、メディカルおよびサージカル面でも進化し続けている。糖尿病黄斑浮腫の治療に対しても分子標的治療薬やステロイド剤の硝子体注入により、良好な治療成績が報告されている。一方、サージカル面でも新たな手術器具や眼底観察法、さらには組織染色法などの導入により、治療の質が高まっている。こうした変化の中で、患者さんのQuality of visionのために、個々の病態に応じた治療が求められている。

そこで、本セミナーでは明日から使える治療におけるコツ、つまり“この一手”を、それぞれの領域の第一人者である2人の先生をお迎えし、お話しいただく。糖尿病黄斑浮腫の薬物治療については鹿児島大学の園田先生に、硝子体手術については千葉大学の山本先生に、最新の治療法についてご講演いただく。

本セミナーで、多くのことを習得し、多くの患者の「光をつなぐ!」ため、明日からの治療にお役立て頂ければ幸いである。



講演 1

メディカルレチナの“この一手”

演者

園田 祥三 先生

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 先進治療科学専攻 感覚器病学講座 眼科学研究分野



講演 2

サージカルレチナの“この一手”

演者

山本 修一 先生

千葉大学大学院 医学研究院 眼科学

光をつなぐ! ~セカンドシーズン~

明日から使える! 網膜治療“この一手”

日時 2013年11月1日(金) 11:40~12:40 会場 第8会場(パシフィコ横浜 313+314)



座長

竹内 忍 先生

竹内眼科クリニック

略歴

1973年 東邦大学医学部 卒業
1986年 東邦大学大橋病院眼科 講師
1988年 東邦大学大橋病院眼科 助教授

1992年 東邦大学佐倉病院眼科 教授
2001年 東邦大学医学部第2眼科 教授
2007年 竹内眼科クリニック 院長
現在に至る

講演 1

メディカルレチナの“この一手”



演者

園田 祥三 先生

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻
感覚器病学講座 眼科学研究分野

略歴

1996年 愛媛大学医学部 卒業
1996年 鹿児島大学医学部附属病院 眼科 研修医
2000年 鹿児島大学大学院医学研究科 外科系(眼科) 修了
2000年 鹿児島大学医学部附属病院 助手

2007年 ドヘニー眼研究所 留学
2009年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 眼科学分野 助教
2010年 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 診療講師
現在に至る

糖尿病黄斑浮腫(DME)は、糖尿病患者における視力低下の大きな原因である。これまでの研究から、血管内皮増殖因子(VEGF)や炎症性サイトカインの関与が病態形成に重要であることが解明されている。この知見をもとに、抗VEGF抗体やトリウムシロノアセトニドの硝子体注射が行われ一定の効果をあげている。また、各薬剤について様々な臨床試験が行われているが、選択基準、投与基準が試験毎に異なり、その結果だけから薬剤の優劣について議論することは難しい。

そこでDMEにおける、網膜光干渉断層計(OCT)で観察される代表的な浮腫形態、漿液性網膜剥離(SRD)・嚢胞様黄斑浮腫(Cyst)・瀰漫性浮腫(retinal swelling)に注目して、硝子体中サイトカイン濃度と浮腫形態の違いについて検討した結果、SRDタイプのみが、IL-6濃度が有意に高いことが分かった。この結果をもとに、DMEのタイプ別にトリウムシロノアセトニド、抗VEGF抗体治療による影響を評価することで、薬剤の選択やDMEの病態について考察したい。

講演 2

サージカルレチナの“この一手”



演者

山本 修一 先生

千葉大学大学院 医学研究院 眼科学

略歴

1983年 千葉大学医学部 卒業
1991年 コロンビア大学眼研究所
1994年 富山医科薬科大学眼科 助教授

1997年 東邦大学佐倉病院眼科 助教授
2001年 東邦大学佐倉病院眼科 教授
2003年 千葉大学大学院医学研究院眼科学 教授
現在に至る

硝子体手術では、ここ最近、高速カッターを用いた無縫合極小切開硝子体手術の普及に加え、広角観察システムや眼内照明系の進化、各種アジュバントの登場により、急速に低侵襲化が進み、患者にも術者にも恩恵をもたらしている。国内で唯一の承認を持つ硝子体可視化剤マキュエイド®も硝子体手術成績向上の一翼を担っており、その効果は既に多くの硝子体術者が実感されているところである。

一方、このような環境においてもなお、硝子体手術時に苦勞する症例は多いのが現実である。そこで本講演では硝子体手術の難症例における手術動画を供覧するとともに、マキュエイド®の可視化時における使用成績調査中間報告を速報する。